

治療の推進求める

党神奈川県議団と「支援の会」

脳脊髄液減少症 知事に要望書を提出

公明党神奈川県議団（鈴木秀志団長）は、このほど、「脳脊髄液減少症患者支援の会神奈川」の、まつもと泉世話人と共に、県庁内で黒岩祐治知事に会い、「脳脊髄液減少症の治療推進等に関する要望書」を提出した。同症は、交通事故やスポーツ外傷などで身体に強い衝撃を受けることにより、脳脊髄



黒岩知事（右から4人目）に要望書を手渡す、まつもと世話人（左から5人目）らと党神奈川県議団のメンバー

液が漏れて発症し、頭痛や吐き気のほか、うつ症状、睡眠障害などを引き起こす病気。

席上、まつもと世話人らは「県内には適切な治療が受けられず、人知れず苦しんでいる人が数多くいる」と指摘。その上で、①公立病院での先進医療の申請と診療の開始②専門医を招いた勉強会の開催③教師、保護者への啓発④専門の相談窓口の設置——など、7項目の早期実現を求めた。

黒岩知事は、「まず多くの人に知ってもらうことが不可欠だ」と述べ、学校現場での啓発や必要な情報を提供するとともに、要望内容をよく検討し、できる限り対応していく考えを示した。